

伝統的技法 × 最先端技術

京都府内6市町（京丹後市・宮津市・与謝野町・福知山市・南丹市・八幡市）で日本博京都府域アートフェスティバル「ALTERNATIVE KYOTO -もうひとつの京都-」が10月1日に開幕しました。与謝野会場の展示を手がけるのは、アーティストのスツニ子！（尾崎ヒロミ）氏とファッションデザイナーの串野真也氏のコラボユニット「ANOTHER FARM（アナザーファーム）」。

展示のコンセプトは「Boundaries（バウンダリーズ）」。「訳すと「境界」。アナザーファームの作品は「境界」を意識し、科学やアートの境界線を越えた表現や、最先端技術を使い人間が越えても良い領域を表現する作品が中心となっています。テーマは与謝野町のシルクの歴史が深いことと、アナザーファームがシルクを題材にした作品を手がけていることから、「シルクロード」にしたと串野さんは話します。

「光るシルク」で空間を演出

与謝野会場で展示する作品は、アナザーファームが2019年に森美術館（東京都）で展示した「光るシルクで織り上げた能衣装」。光るシルクは、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構の遺伝子組み換えの技術で、蚕が卵のときにクラーゲの遺伝子を入れることによって、光を当てると発光するというもの。「普通では目にするのができないシルクを使用しているのが最大の特徴。能衣装を宙に浮かせ周囲に糸を配置し、ブラックライトを当てることで、蚕が糸を吐き衣装を縫うようなイメージを表現します」と展



展示されているアート作品

示のイメージを膨らませます。

しかし、同じ作品を展示するにも一筋縄ではないという。シルクはタンパク質を含んでいるため、温度や湿度が高いと発光しなくなる欠点がある。「たんばく質が含まれているため、ある種生き物のような感じを受け止めています。森美術館の展示から2年が経過しているため、経年変化とは違う変化の風合いも楽しめるのではないかと串野さんも展示を楽しみにする一人です。

境界をなくし、思いを一つに

展示に向けて短期間で何度も与謝野町に足を運び、串野さんの中で一番印象的だったのが人の温かさ。「与謝野町は合併を経験したまち。この

シルクのアート作品が皆さんをさらに結束させ、思いを一つにするきっかけにしたいです」と作品に思いを込めます。最後に、アート作品の感じ方は人それぞれ違いますが、皆さんにシルクの可能性を感じてほしいと話してくれました。

プロフィール



くしの・まさや
1982年生まれ 広島県出身
京都芸術デザイン専門学校を卒業後、イタリアに留学し、「Istituto MARANGONI」ミラノ校のファッションデザインマスターコースにてディプロマを取得。帰国後、「JILA LEATHER GOODS AWARD2007」でグランプリを受賞したことをきっかけに、革を中心とした靴や鞆などを展開するブランド「Masaya Kushino」をスタート。その活動は日本だけに留まらず、海外でも積極的に作品を発表し続けている。
出展 串野真也氏ホームページ

催しの内容

テーマ

シルクロード

— Boundaries —

日時

10月1日（金）～ 11月7日（日）

午前10時～午後5時（最終入場 午後4時30分）

※ 金土日および祝日のみ公開〔11月4日（木）は臨時公開〕

場所

旧加悦町役場庁舎

